

<20 周年記念 歴代幹事から一言>

クボタシステム開発㈱ 大谷 和久様

大谷です。

そうですか。20周年ですか。おめでとうございます。10周年の行事のこと思い出しました。

ここまで続けているのも、事務局・吉羽さんのお力、努力の貢献度大ですね。ご苦労様です。又記念会へのお誘いありがとうございます。

あまり年寄りがこの顔を出すのも気がひけますし、昔話も現役の方には夏の暑さに勝る鬱陶しいことですので、迷ったのですが家田さんのお誘いも頂戴しましたので、喜んで出席させていただきます。

部分出席となりますが、下記で宜しくお願い致します。久しぶりの再会楽しみにしております。

松下電器産業㈱コーポレート情報システム社 岡田 春樹様

パナソニック卒業後は何社かの顧問をさせて頂き、現在はS社の人材育成の外部審査委員や教育機関で情報関連講義等を行っております。ゴルフは下手になる一方ですが2年連続で100ラウンドもこなしました。

姫野社長様はじめ皆さまの益々のご健勝と「コンピュータ運用を考える会」の発展・盛会を祈念申し上げます。

塩野義製薬㈱ 家田 信様

退職して丸11年になろうとしています。

この退職をきっかけに大阪運用会を塩野義が退会しました。10周年の時は、当時からすればCDの作成など出来るはずもないのに「作ります」と手を上げただけに、今思えば必死でした。

なお、わずかな時間(15分)を頂いて、会議の合間の余興でもしましょうか？

スミセイ情報システム㈱ 大津 福和様

お久しぶりです。

記念行事は、申し訳ありませんが欠席させていただきます。

小生ただいま京都にて隠遁(いわゆる社会的ひきこもり)中。還暦を過ぎてから、初めてのピアノ演奏に挑戦、とても静かで穏やかな毎日を楽しんでおります。

運用会も20年ですか。立派なものです。姫野さんのご苦労の賜物ですね。皆さまによろしくお伝えください。

住友電工情報システム㈱ 今村 弘之様

大阪運用会発足20周年、おめでとうございます。

本会合は各社様のデータセンター設備見学やトラブルゼロへの取り組みは大変勉強になっております。

弊社メンバーも若手に世代交代しましたが、本会合が末永く継続されることを祈念いたします。

スミセイ情報システム㈱ 川北 康夫様

運用会(大阪)20周年おめでとうございます。

H19年から大阪の運用会に参加させていただき、直近数年は代表幹事をさせていただきました。

運用に特化した情報交換会はなかなか開催されておらず、各社の色々な取り組みを知り大変刺激を受けました。

小職にとっては、伊藤忠テクノソリューションズさんの【HEZ 運営】の講演を聞いたことがその後の業務改善に大変に立ちました。オペレーション業務の品質を劇的に改善させることが出来、私自身の業務改善の取り組みとして最大の成果となりました。

現在は、運用の業務からは離れましたが、運用会の活動には時間を割いて参加させていただきます。

今後ともよろしく願います。

<20 周年記念 講師から一言>

㈱プライド 松平 和也様

20周年、おめでとうございます。

ユーザ会を地道に運営されて、既に20年になるのですね。会員の皆様の強力な意志が無ければ続きません。事務局にもご苦労様です。運用会の本質は、会員が会に出てきて、耳に伝えて、目に伝え、心に伝えて、仕事の場にて、実践するのです。一種の秘伝相伝の場ですね。大阪運用会:天晴れ!なり

ベニックスソリューション(株) 柿塚 信一様

大阪運用会設立 20 周年おめでとうございます。

大阪で 10 周年記念行事を実施したのがついこの間のような気がするのですが、早いものであれからもう 10 年が経ちます。

私は 10 周年記念行事の際に実行委員の一人として、「あと 10 年、20 年とこの会を続けて行きましょう」と挨拶させていただいたのを覚えています。今それが現実となっていることを大変嬉しく思います。

東京もそうですが、この運用会がこれだけ長く続く理由はただひとつ、会員にとって「有用だから」だと言えます。

IT 運用部門はどちらかと言えば閉鎖的な部門で、外部とのかかわりと言えば、メーカーやベンダーが主であり、開発部門などに比べると外部と関わりが少ない部門です。

このため、得られる情報もメーカー、ベンダーからの「売らんがための情報」が主で、実運用にかかわるノウハウ的な情報の入手が難しく、いわば独学で運用ノウハウを習得しなければなりません。

私は 2002 年にベニックスソリューション(川崎重工)の IT 運用を担当することになりましたが、この時のテーマが、「オープン系システム運用の確立」でした。

当時、ホスト運用については、長年のノウハウの蓄積で標準化、効率化が実現していたものの、ネットワークを含むオープン系の運用は、全くのゼロスタートであったため、何をどうやったら良いのかもわからず、発生する障害を復旧させるので精一杯でした。

このような「もぐらたたき」の状況では、運用の標準化や効率化などできるはずもありませんし、サーバやシステムの増加に伴ってかえって障害が増え、当然のこととして社内からの評価も得られませんでした。

オープン系運用に関する情報を得るために、合間を窺ってメーカーやベンダー主催のセミナーへ出向きましたが、当然のこととして主催者の製品を使った監視方法などツールありきの紹介が多く、マルチベンダー・マルチプロトコルをポリシーとした当社の運用にはさほど有用ではありませんでした。

このような時に思うのは、「自分たちと同じような企業はどうしているのだろうか?」ということです。

しかしながら、運用部門というのは、外部との付き合いが少ない内向的な部門ですので、他社の運用部門との伝手(つて)もありませんし、加えて自分たちの内情を外に出すことも嫌います。そうするとますます内に籠ることになり、なかなか問題解決が難しくなります。

私にとって「聞きたいけど聞けない!言いたいけど言えない!」このようなジレンマを解決してくれたのが、運用会でした。

運用会へは、運用に携わるようになった後、前任者から引き継ぐかたちで出席するようになりましたが、その時には「エッ!こんな会があったの?」と言う驚きを感じました。

それは、ベンダー主催のセミナーやユーザー会とは異なり、私たちと同じ製造業だけではなく、金融やサービスなど異業種の運用部門の方が参加された、まさに IT 運用に関して「聞くことのできる場」、すなわちどうやっているか尋ねることができる場であり、「言える場」、すなわち自分たちの悩みを相談できる、やっていることを評価してもらえる場だったからです。

多分、参加しておられる会員の皆さんも私と同じように思っておられるのではないのでしょうか。そしてこれが今に続く運用会の「有用性」ではないかと思えます。

しかしながら、この「有用性」だけでは 20 年も続けることはできません。

私は、20 年も続いたもうひとつの理由がこの会の運営にあると思っています。20 年の間には、このまま存続できるか危うい時期もあったように思います。

特に 10 周年あたりでは、若い人の出席があまりなく、世代交代が継続するための課題となっていましたので、何とか若返りを図ってこの先も続けて行ってもらいたいと思い、記念行事での挨拶の詞にもなった訳ですが、こうやって 20 周年を迎えられたということは、それがうまく行ったということでもあり、大変嬉しく思います。

この影には、会員企業の皆様の自社内で理解を得るための努力と定例会への参加、それに本音での意見交換など、この会を続けたいという強い思いがあったからだと思えます。

加えて、発足当初から自社のビジネスと一線を隔して事務局としてお世話いただいているブロード様には、なみなみならぬ御苦勞とともに、頭が下がる思いです。

(正直言いますと、この会がベンダーの製品を売らんがための会であったなら、私は脱退していたと思います。)

私は今年の 3 月に会社勤めを卒業しました。

在職中はオープン系の IT 運用の確立を目標として取り組んできました。手前みそではありますが、まがりなりにもその基礎はできたのではないかと感じており、これに人的交流を含め運用会の果たす役割は大きかったように思います。

運用はしばしば「運用保守」と言う言い方をされる時がありますが、IT 環境は日々変化し、運用リスクも変化しています。したがって IT 運用も現状維持の守りの保守ではなく、その変化する環境や新しいリスクに対応する攻めの保守が必要になります。

この攻めの運用保守を行うには、常に新しい運用技術や運用方法を取り入れていく必要があります。運用会が情報収集や情報交換の場、すなわち「聞きたいことを聞ける場、言いたいことを言える場」としてますます重要な位置づけになると思っています。

したがって、今後も会員企業の皆様の手でさらに 10 年 20 年と続けていっていただきたいと思っています。

残念ながら、私はもう直接的に関わることはできませんが、これからの運用会のますますの発展を祈念して、設立 20 周年に寄せる詞とさせていただきます。

以上